



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.11
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

併用禁忌の誤認



事例

【事例の詳細】

オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」を服用中の患者が、フルコナゾールカプセル100mg「サワイ」とカンデサルタン錠4mg「あすか」が記載された処方箋を持参した。処方箋のコメント欄に、「フルコナゾールとオルメサルタンが併用禁忌であるため、オルメサルタンを中止し、カンデサルタンを服用するよう患者に説明してください。」と記載があった。薬剤師は、オルメサルタンとフルコナゾールカプセルは併用禁忌ではないため疑義照会を行った。処方医から「フルコナゾールカプセルの添付文書に、オルメサルタンが併用禁忌との記載があり、院内の薬剤部にも確認した。」と返答があった。薬剤師が製薬企業に確認したところ、「オルメサルタン メドキシミルとアゼルニジピンの合剤であるレザルタス配合錠は、含有するアゼルニジピンとの相互作用のためフルコナゾールカプセル100mgと併用禁忌であるが、オルメサルタン メドキシミル単剤であれば問題ない。」との回答があった。薬剤師が改めて処方医に連絡し情報提供したところ、カンデサルタン錠4mg「あすか」が削除になり、オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」を継続服用することになった。

【推定される要因】

フルコナゾールカプセルの添付文書の禁忌の欄に記載されている「オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン」は、レザルタス配合錠を指すが、処方医はオルメサルタン メドキシミル単剤が併用禁忌であると勘違いしたと推測される。

【薬局での取り組み】

薬剤の併用の可否を判断する際は、対象となる両薬剤の添付文書を確認する。レセプトコンピュータの相互作用チェック機能を活用する。



その他の情報

フルコナゾールカプセル50mg/100mg「サワイ」の添付文書 2023年10月改訂（第1版）（一部抜粋）

2.禁忌（次の患者には投与しないこと）

2.1 次の薬剤を投与中の患者：オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン

10.相互作用

10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アゼルニジピン（カルブブロック） オルメサルタン メドキシミル・ アゼルニジピン（レザルタス配合錠）	イトラコナゾールとの併用によりアゼルニジピンのAUCが上昇することが報告されている。	本剤はこれらの薬剤の主たる代謝酵素であるCYP3A4を阻害するので、併用によりこれらの薬剤の血中濃度が上昇することがある。



事例のポイント

- 本事例は、処方箋に記載されたコメントから、処方医が添付文書の禁忌欄に記載された薬剤名を誤認した可能性があると考えた薬剤師が、処方医に正しい情報を提供した事例である。
- 添付文書には併用禁忌に該当する薬剤の一般的な名称が記載されるが、配合剤の場合は併用禁忌に該当しない成分も併記されるため、誤認しないよう注意する必要がある。本事業には、類似の事例として、オルメサルタン錠を服用中の患者に、フロリードゲル経口用2%やパキロビッドパック600/300、ゾコーバ錠125mgが処方された際に、薬剤師が誤って併用禁忌であると判断し、処方医に疑義照会をした事例も報告されている。
- 併用禁忌を確認する際は、添付文書の相互作用にある「臨床症状・措置方法」「機序・危険因子」やインタビューフォームを確認し、併用禁忌の薬剤とその理由を把握したうえで判断することが重要である。
- 添付文書の禁忌に記載される配合剤に関連する誤認を防ぐため、「アゼルニジピン含有製剤」と表記するなど、禁忌である成分が判断しやすいような記載が望まれる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhrc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。